

- 優良な生産技術の普及による単収向上の取組みが全国で見られます。
- 品質や加工適性などの面ですぐれ、なおかつ収量の上がる品種への転換が進んでいます。

## 【優良な生産技術の普及について】

### 主な技術対策の取り組み

- ①湿害対策: 耕うん同時畝立て播種、小畝立て深層施肥播種
- ②干ばつ対策: 畝間灌水
- ③土づくり: 土壌診断による土壌の化学性改善



#### ①湿害対策

##### <耕うん同時畝立て播種>

アップカッターロータリーによる耕うんで碎土率を高め、畝を立てて播種することで生育初期の湿害を防止する。

##### <小畝立て深層施肥播種>

畝立て播種による湿害防止のほか、表層への施肥+深層への緩効性肥料の施用により、追肥作業不要で省力化と増収にも繋げる。

#### ②干ばつ対策

水路に繋がる灌水溝を掘り、特に水分が必要な開花期の干ばつ時(土壌水分が少ない時)に灌水することで、収量を高める。

#### ③土づくり

土壌分析データにもとづき、不足成分の補充やpH矯正のための資材提案(土壌診断処方箋)を行い、収量・品質向上に繋げる。

## 【品種転換のとりくみの現状】

### 転換品種のポイント

- ①莢数や粒の大きさ、収穫ロス低減など多収に結びつく品種
- ②品質が良く(病害に強いなど)、加工適性に優れる品種



※地域によって作期が異なるため、それぞれの地域に適した優良品種が展開されている。

**フクユタカ・エンレイの難裂莢性品種**  
フクユタカA1号(愛知)、  
えんれいのそら(富山)

**シュウリュウ:青森・岩手**  
収量が安定して高く、豆腐加工適正に優れる。

**里のほほえみ:山形・栃木・新潟等**  
大粒・難裂莢性でタンパク含量が多い。

**ちくしB5号:福岡**  
フクユタカより早期に播種しても倒伏・青立ちが少なく収量が高い。

